

## ICTを活用した教育体制構築に関する実証事業 報告書

<b>1. 学校名</b>
パース日本人学校
<b>2. テーマ</b>
Search and Creation with together 共に、調べ、創造しよう
<b>3. 取組の概要</b>
(※報告書の内容を要約し、200～400字程度で記載してください。)
<p>1、Meshを使ったプログラミング教育 対象、4、5、6年生 中学生 元全国中学校理科研究会 高島勇二先生と本校教諭と日本人学校のリモート授業 全8回</p> <p>2、オンライン社会科見学 対象 4、5、6年生 中学生 日本の地理 歴史 内容によっては、全学年 川越本丸御殿 京都寺院 和紙伝統工芸館 富岡町3・11語る会 河口湖フィールドセンター 福島警察署 小川町消防署 コミュタン福島(放射能) クリーンティ松野 計11回</p> <p>3. 自主学习教材ソフト 対象 小1から中3まで 日本語段階が様々な児童生徒への自主学习ソフトのインストール 特に、国語を重点化</p>
<b>4. 取組の背景・目的</b>
(※非常時でも途切れない「学びの保障」の在り方と関連づけて記述してください。)
<p><u>取り組みの目的</u> 今回、Covid-19により赴任できず、日本よりのオンライン授業を展開している。オンライン授業の方法そのものは、遠隔授業の進んでいるオーストラリアの方がはるかに進んでいる。そこで、今回は、日本にいる利点を如何に活かし、その利点を現地の子供たちに伝えるかに焦点を絞った。特に、本校は、現地在住の子供たちが多数在籍している。日本を知らない子供たちに、実際の日本を体験してほしい。そこで、日本の機材を使った専門講師による授業、人物を中心とした社会科見学、日本語を主としソフト導入を研究の柱とした。</p> <p><u>取り組みの計画</u> 上記3点より、研究を進める。</p> <p>1、Mesh Teamsによるオンライン授業 教師(日本)講師(日本)児童生徒(現地)によるプログラミング教育。 2、オンライン社会科見学 IpadによるTeams(外のため、5G使用)でのインタビュー。児童生徒Wi-Fi使用。 3、自学自習できる日本語上達ソフトの導入と日本からの支援。使い方を放課後学習にてオンライン指導。 児童生徒は、Ipadを全員、家庭に持ち帰り可。自宅での学習支援も行う。</p> <p><u>本事業の特色と意義</u> 今回、Covid-19により赴任できない期間が長期化している。児童生徒へのICT機器の支援をいただいたが、それを活用することを、現地の教員にお願いするには、本校のように半分が赴任できていない状況下では、不可能である。日本待機組がこの事業を通し、結びつき、共に学校教育充実へ邁進したい。 赴任後は、オンライン社会科見学を、大学生のボランティアにお願いしてある。</p>

5. 取組の実施日程	
日程	取組内容
8月	オンライン社会科見学打ち合わせ。 Mesh 購入。講師手配。 ソフト選定
9月	Mesh プログラミング授業実施(週1回) 第1回、オンライン社会科見学実施(小川和紙伝統工芸の里) 第2回、オンライン社会科見学実施(京都南禅寺)
10月	第3回、オンライン社会科見学実施(富岡町語り部の会) Mesh プログラミング授業実施(週1回) 第4回、オンライン社会科見学実施(河口湖フィールドセンター) 消防署オンライン社会科見学実施
11月	Mesh プログラミング授業実施(週1回) 第5回、オンライン社会科見学実施(京都銀閣寺等) 第6回、オンライン社会科見学実施(川越本丸御殿) 警察署オンライン社会科見学
12月	Mesh プログラミング授業実施(週1回) 第7回、オンライン社会科見学実施(グリーンティ松野) 第8回、オンライン社会科見学実施(コミュタン福島)
1月	Mesh 研究授業 中学部 小学校4年生
2月	第9回、オンライン社会科見学実施(京都吉田神社) アンケート実施 まとめ
6. 具体的な取組内容 (※詳細に記載し、付属資料があれば添付してください。)	
<p>1、オンライン社会科見学</p> <p>企画書</p> <p>実施計画</p> <p>指導案</p> <p>2、Mesh プログラミング授業</p> <p>指導案</p> <p>プレゼン資料</p> <p>3、ソフトによる自主学習</p> <p>タッチペン使用</p> <p>キーボード使用</p> <p>成果物を参照。</p>	

## 7. 取組の成果

(※どのような課題をどのように解決したかや、生徒・児童への効果等について詳細に記載し、成果物があれば添付してください。また成果がどのような観点で他の学校の参考になるかも記載してください。)

### 1、社会科見学で出かけられない。

オンラインにて、行けない場所や地域の様子を詳細に知ることができ、しかも現地の人々と交流ができた。

全学年で実施。

アンケート参照

### 2、プログラミング教育のスペシャリストの欠如

オンラインにてスペシャリストの話を直にきくことができ、プログラミング教育の具体的・実践的授業をスムーズに展開できた。

4年生以上で実施。

アンケート参照

## 8. 今後の課題・展望

(※次年度以降への継続性及び発展性に言及してください。)

### 1、オンライン社会科見学の継続的实施

wihi 環境を整え、撮影するメンバーへの依頼

大学生に実施依頼しているが、志願者が少ない。(京都のみ確保)

### 2、Mesh の継続的使用

購入代金が高い。(来年度は運営理事会の了解を得、予算化済み)

### 3、ソフトの継続的使用

Ipad へのインストールが、apple store を通してのみしかできない。

## 9. 所感

今年度、国内待機8カ月という長期間の中で、実践的かつ現地と結びついた、実証授業研究をすすめることができた。何より、パース日本人学校の子供たちの、真摯なまなざしや取り組みが最大の成果であった。この取り組みは、一過性のものではではない。来年度も、そして、教員が入れ替わっても、組織的に取り組めるシステムを今後しっかりと構築していきたい。

※提出いただいた報告書や成果物は、本事業の取組成果として公開する予定です。また、記載いただいた内容は文部科学省や海外子女教育振興財団のその他の資料にも使わせていただく可能性があります。

※記入欄は適宜拡張してください。